

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月1日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103763
法人名	医療法人 三州会
事業所名	グループホーム せせらぎ
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂本町3番92号 (電話) 099-254-6407
自己評価作成日	平成29年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www kaigokouhyou jp/kaigosip/Top do?PCD=46">http://www kaigokouhyou jp/kaigosip/Top do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年11月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①尊厳を持って生活ができる環境を基本に考えています
- ②個々のその日の身体面や心理面を見極めながら活動や休息のバランスを考え生活リズムを調整したケアに取り組んでいます
- ③利用者に対する接遇にも重視し自尊心に配慮した対応を心掛けています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは協力医療機関が敷地内にあり、スムーズな医療連携体制が整っている。利用者や家族の希望や協力があれば、看取り指針に沿って終末期の看取りを主治医・管理者・全職員が連携をとり共に取り組む姿勢ができていて利用者が安心して生活できるよう支援している。
- ・町内会に加入し、地域清掃作業・運動会・夏祭りへの積極的な参加や中・高校生の実習受け入れ、地域住民の相談、施設見学、踊りボランティア受け入れなど継続的な交流があり、ホーム行事への家族・地域住民の参加協力など良好な連携が保たれるよう努めている。
- ・利用者の嗜好を取り入れた献立作成で、減塩食や食材の地産地消を心掛けている。咀嚼機能や嚥下機能に合わせた食形態にも工夫した食事作りで、利用者参加の行事食を手作りし、ホームの味を作り上げて健康や楽しみを支援している。
- ・利用者や家族の意見や思いを個々人の連絡帳を通して把握しケアに活かしている。
- ・職員は勉強会や研修で資格取得に励み、接遇対応の質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングや朝の申し送りには全員で唱和し確認し合う。各自ネームの中に入れて日々の利用者との関わりの際、理念が反映されるように意識づけしている。	毎朝、2ユニット合同の申し送り後、全員で理念を唱和し、確認し実践に繋げている。年に1回職員は理念を含めた振り返りを行っている。理念はフロアなど3ヶ所に掲示し、職員のネームやパンフレット・せせらぎ便り等に掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域商店での買い物や声かけ、月1回の地域でのボランティア清掃作業を通じて声かけを行っている。地域の行事に利用者と一緒に参加している。	町内会に加入し、総会や地域行事の清掃作業・運動会・夏祭りなどに参加したり、管理者は福祉館でリハビリ体操や認知症予防について講話するなど、地域と親しく交流している。専門学校生の実習や中学生の体験学習を受け入れたり、踊りのボランティア等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域住民のホーム体験の場や民生委員・老人会代表の方からの意見を聞く機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の状況を聞く機会として、事業所の状況を伝え要望・意見や情報交換を行いながら地域とのつながりを得る場となっている。	会議は定期的に開催し、ホーム内の現状など報告し、参加者もそれぞれの立場で活発に意見交換をしている。出された意見でエレベーター内に各階の詳細を提示したり、防災訓練時の誘導について話し合ったり、地域の困難事例などの相談を受けて対応している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業を進めていく中で生じる運営サービスの課題について、その都度相談している。	市担当者に報告書を持参し、コミュニケーションを図ったり長寿安心センター職員とは会議や電話・訪問するなどして積極的に相談・アドバイスを受け協力関係にある。福祉課職員とも情報交換を密に連携を取っている。自治体主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会での話し合い・検討を行い、身体拘束はいかなる場合も行わない事を基本に取り組みや工夫をした支援を中心掛けている。2ヶ月に1回話し合いをしている。	マニュアルを基に2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、研修を行っている。年1回定期的に勉強会をしている。スピーチロックにならない対応をミーティングで日々話し合っている。日中の玄関の施錠はせず、外出希望時は職員と一緒に散歩して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	年間計画、研修の中で学ぶ機会を持ち、又ミーティングや勉強会においても理解を深めるようしている。			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要と認められる利用者には関係機関への支援を行っている。			
9	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書と重要事項説明書の読み合わせをしながら、その都度、質問や疑問点を伺い納得のいく説明を行っている。利用料金や加算についても詳しく説明を行っている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の会での意見要望や意見箱の設置、連絡帳の設置等により出された意見は運営に反映させるようにしている。	本人からは日々の生活の中で思いを聞いている。家族のアンケート調査を実施し、希望や要望を聞いている。家族会で結果も報告している。各居室に連絡ノートを設置し生活状況を担当職員が記載し報告や意見など聞いている。遠方家族にはせせらぎ便りの郵送や電話で報告し、意見を聞き、運営に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日のミーティング、月1回のカンファレンス、必要時個別面談の機会を持ちその都度意見を聞いています。	各ユニットでの毎日のミーティングで日々のケアの中で相談や意見・希望などを聞き、月1回の合同のカンファレンスを行っている。管理者は個人面談をしている。意見の反映として、ケア時のクッション利用や浴室での安全手すり設置・リクライニングチェアの使用等がある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己実現のための目標管理カードを作成し1年に1回結果を評価し、各自が向上心を持って働く条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修計画の沿っての学習や施設外の研修の参加を行い、カンファレンス時には、個々の要望を聞きアドバイスの場としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会を通じての研修や意見交換の場に参加して質の向上の取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談での生活状態や本人の状態把握をしている。直接本人に会って話を聴きながら本人の思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めているものをしっかりと理解し対応につなげるように努めている。話を充分に聴く機会を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の思いを状況を見極めながら必要と思われるサービス調整等も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができる場面作りや声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時又は連絡ノートや電話等により状況報告をその都度お伝えしている。要望等聞くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域住民・家族・面会者等にはホーム内の催し物（行事等）にお誘いしている。地域の行事等にも参加し交流に努めている。	入居時に情報を把握し、面会時はお茶を出し一緒に会話できる状況であればコミュニケーションを図っている。地域住民や友人など、馴染みの人の面会や訪問時に行事への誘い掛けやくつろげる空間づくりを心がけている。行きつけの美容院やショッピングは家族が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで過ごす時間や気の合う方同士で過ごせる場面作りを行っている。心身の状態や気分・感情で日々変化することもあるので注意深く見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話等で話し合いをする機会を持ったり、ホームに立ち寄って頂くお誘いをしたり、関係を大切にするように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>アセスメントの情報を基にして日々の関わりの中から本人の言動・行動・表情等から汲み取り把握している。家族や関係者からの情報も得ながらアプローチを行っている。</p>	<p>入居前や日々の一人ひとりの性格や生活歴を把握し、その日の言動や表情の変化から思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合、ミーティングや連絡帳・家族・関係者などから情報を得て、本人本位に検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人自身の語りの中から家族・知人等の関係の方からの話や情報を得ながら把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを把握しながら行動や動作からも感じとり心理面等を見極め全体の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族の意見・要望を取り入れてアセスメントの結果をふまえてプラン作成をし必要時又は定期的に見直し検討を行い、利用者主体の生活を反映した計画作成をしている。</p>	<p>本人や家族の意見・要望を聞き、主治医と話し合い、担当職員が中心でミーティング内容をアセスメントし現状に即した介護計画を作成している。1ヶ月1回のミーティングやミニカンファレンスで職員で話し合い、3ヶ月～6ヶ月に1回モニタリングしている。必要時見直し、現状の生活を反映した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録や個別に各自チェック表を用いて記録している。職員の気づきや利用者の状態変化等、職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況や体調面の変化等に必要時に必要な支援を行い本人・家族の要望に応じている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らせるように民生委員・消防署等と連絡をとり協力を呼びかけている。ボランティアへの協力もお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医となっている。ご家族の協力で受診を行うことがあるが、同行不可能な場合や急変時は職員で代行する。入所時の契約時、同意を得ている。	基本的に本人・家族の希望するかかりつけ医である。母体が医療機関で24時間医療連携体制を取っている。内科的定期受診は月1回職員の同伴、外科等は家族で行っている。泌尿器科・歯科は往診で適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとられた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職を配置していて、常に健康管理や症状に応じて速やかに対応している。医療連携体制をとっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は適宜面会し、主治医との連絡を密にして家族への説明を行うようになっている。退院計画に沿いながら回復状況を見守り退院支援に結びつけている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に指針による説明を行い確認している。重度化した時や終末期時には医師を交えた話し合いを重ねながら状況に応じた対応に努めている。	重度化した場合の対応に係る指針についてマニュアルがあり、入居時に説明し確認している。状態が変化した場合は家族と話し合い、主治医とカンファレンスしながら状況に応じた対応をしている。看取りは体制強化し、家族が宿泊できる環境を整えている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急救手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時の対応については年1回、日赤の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施している。緊急時対応についてはマニュアルを用いて周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。地域の自衛消防員の方にも協力をお願いしている。	マニュアルがあり、年2回消防署立会いのもと、通報・避難訓練を行い、3ヶ所に消火器を設置し、使用方法など指導を受けている。避難場所も確認している。地震板の操作方法等を確認し話し合いをしている。管理者から地域の自衛消防員に連絡し協力を得られるようになっている。災害時の水・缶詰・パックの米・菓子・カップ麺・ブルーシート・ヘッドライト等、備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>勉強会やミーティング、又は折に触れる職員の意識向上を図るとともに、利用者のプライバシーや誇りを損なわない対応を話し合っている。まずは本人の気持ちを大切に考えた言葉かけに努めている。</p>	<p>職員は研修や勉強会で接遇応対の質を高めている。個人情報や守秘義務について年1回研修会を行い、関わり方や声のかけ方など研鑽している。大きい声で話しかけないことを基本に、苗字で声かけし、肩に手を置きトイレ誘導や入室は「失礼します」の声かけ、洋服なども選択できるよう支援している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員側の決めたことを押し付けないように日々の生活の中から本人の関心、嗜好を見極め要望が叶えられるような支援を心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れがあるが、時間に沿った過ごし方ではなく体調、気分に応じて1人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>ご本人・家族からの好みや希望にそるように個々の個性、希望に応じた対応になるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや形態をふまえてメニューを作成している。個々の力に応じて買い物や手伝いを一緒に行っている。利用者の出来ることを自然な形で参加する雰囲気を作るよう心がけている。	入所時や日々の暮らしの中で嗜好を聞き献立を作成している。食事形態や代替食で食事が楽しいものとなるよう支援している。身体能力に応じて茶碗洗いやテーブル拭き等、職員と一緒に行っている。郷土料理や行事食を取り入れ、食事に期待や楽しみを持たせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は基本的には $1000 + \alpha$ としているが、個々に応じている水分量や本人の好みに応じた飲み物も楽しめるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや個々に応じたケア方法を実施している。ハミングットの使用やガーゼ等による口腔内の清潔、義歯の洗浄等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンに合わせて時間毎の声かけトイレ誘導をしている。昼間はトイレでの排泄を主にして支援し、夜間も個々に応じた対応に努めている。	排泄チェック表があり、日中はトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。入居者のほとんどがリハビリパンツに尿取りパットを使用している。失禁時は居室に誘導し対応している。職員は羞恥心や不安への配慮として小声で対応している。入居時は下着汚染の頻度が多かつたが現在は減少傾向で自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いて個々の排泄確認を毎朝行い、排泄の有無に応じて個々の対応策を行うようしている。毎日又は2～3日に1回は必ず排泄出来るように対処する。食物繊維の摂取やジュース類も工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には毎日声かけを行うようしている。拒否される時は時間をずらしたりして試みるようしている。1人ひとりに合わせた入浴時の対応、声かけを心がけている。	基本的に週3回で午後からの入浴を行っている。希望があれば毎日でも可能である。1：1介助であるが身体状況に応じて1：2介助でリクライニングチェアの使用もある。拒否がある場合は時間をずらしたり、流れを変えて声かけ支援している。時々入浴剤も使用する。羞恥心に対してはバスタオルで対応している。入浴前のコミュニケーションやタイミングを考えた声掛けで利用者の入浴を楽しいものになるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしているが、個々の状態を見極めながら休息がとれるようにしている。夜間寝つけない時には温かい飲み物やおしゃべり等で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	処方箋のコピーをケース毎整理し職員が把握し確認できるようにしている。服薬時は必ず本人に手渡しきちんと服用するまで確認をする。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	得意な事で役割や楽しみが持てるように支援を行っている。個々に合った楽しみごとや気晴らしになるような働きかけを心がけている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	ホーム内の行事で外出時には地域の方にも参加してもらっている。	日頃は地域の商店での買物や散歩に出かけている。年間計画でコスモスや桜の花見、買い物などに出かけたり、誕生日には外食をしている。地域行事の運動会や夏まつりなど民生委員や家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。外出困難な入居者には花などを持ち帰り五感に働きかける支援をしている。家族との外食・買い物などにも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じて買い物の機会を作り出かけるようにしている。少額を所持してもらったり、買い物の時に渡したりして楽しみを持てるように支援している。			
51	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎや家族・友人にかけたりする支援はいつでも対応するように心がけている。			
52 19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感が味わえる花を活けるように心がけている。安全面や音に配慮したジュータン敷になっている。季節感のある作品を作り壁に貼って楽しめるように工夫している。	共用空間は採光もよく、室温・湿度も調整し、臭いもなく清潔で気持ちよい環境となっている。フロアの壁にはコスモスの花や手作り作品、行事等の入居者の笑顔の写真などが飾られている。テレビやソファ・掘りごたつのある和室があり、居心地よく過ごせるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の空間にソファーを置いたり、掘りごたつの場所でくつろいだり出来るようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の能力や好み、生活スタイルに合わせて本人や家族の意向に合わせて工夫している。	居室はテーブルと整理タンス・押し入れが設置されている。使い慣れたベットと寝具・テレビ・ソファなどを持ち込み家族写真・自作品・縫いぐるみを飾り、快適に過ごせるような工夫がされている。押入れに洋服や帽子・バッグが整理され、着用したい衣服が選べるような、職員の心配りが居室を居心地よくしている。家族と職員の架け橋帳が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に段差があり、踏み外し防止に滑り止めのマットを敷いたり椅子を置いたりして安全性と自立に向けた支援を行っている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目 : 28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通りの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		2 数日に 1 回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	○	1 大いに増えている
			2 少しづつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない